

理学療法等の届出 (概16年3月1日現在)

区分	総合リハ	PT	OT
公立公営	28施設	17	21
公立民営	12	8	7
民立民営	23	15	13
計	63	40	41

※PT、OTの数は重複している施設あり。

理由別入所児童数 (概16年3月1日現在)

区分	児童数
入所中の被虐待等	123人
養育上の問題児	366
母親の病気等やむを得ない児童	140

63施設中58施設回答

障害児(者)地域療育等支援事業実施状況

- ① 療育等支援施設事業の指定施設 31施設
- ② 療育拠点施設事業の指定施設 11 "

入所児者の外泊状況

年月	延日数	延件数	実人員
15・3	9,718	4,583	1,805
4	7,086	3,753	1,435
5	7,836	4,839	1,926
6	5,432	3,907	1,438
7	7,541	4,038	1,699
8	17,529	4,465	2,154
9	6,907	4,115	1,705
10	6,397	4,047	1,693
11	8,468	5,060	1,731
12	12,483	4,590	2,124
16・1	13,211	5,353	2,185
2	5,426	3,740	1,342
合計	108,034	52,490	21,237

入院料の算定出来ない2泊3日以上を対象に延日数、延件数及び実人員を計上

重度・重症児別入所児童数 (概16年3月1日現在)

区分	児童数
大島分類 1～4	841人
大島分類 5～9	496
超重症児(スコア25点以上)	48

63施設中60施設回答

外来患者数調べ

1週間の延外来数 (特定の1週間)

区分	外来数	割合
小児(18歳未満)	16,262	70.3%
成人(18歳以上)	6,858	29.7
合計	23,120	100.0

61施設中58施設回答

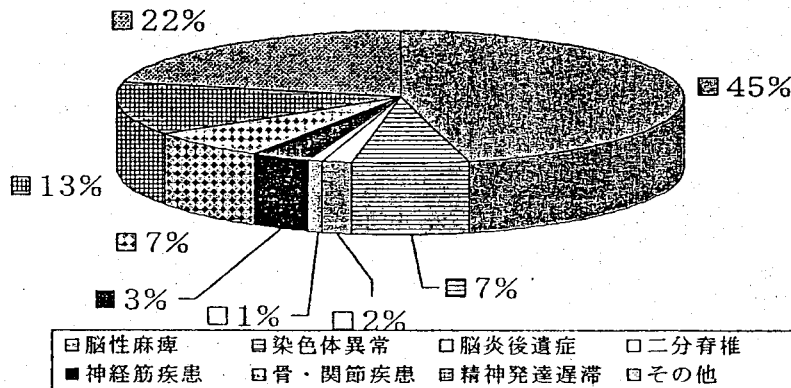
外来患者における主病名 (特定の1週間)

区分	小児	成人	割合
脳性麻痺	6,911	2,042	38.7
その他の脳原生疾患	1,042	512	6.7
二分脊椎	324	154	2.1
先天性のニューロパチー	205	37	1.0
骨・関節疾患	766	1,181	8.4
その他の整形外科疾患	390	479	3.8
てんかん	1,005	464	6.4
精神発達遅滞	1,682	150	7.9
自閉症・LDなど	1,305	40	5.8
軽度の発達遅滞(～乳幼児)	308	0	1.3
その他の小児科疾患	850	0	3.7
その他	1,503	1,770	14.2
合計	23,120		100.0

61施設中58施設回答

# 外来病名分布 (18歳未満)

全施設 平成15年10月

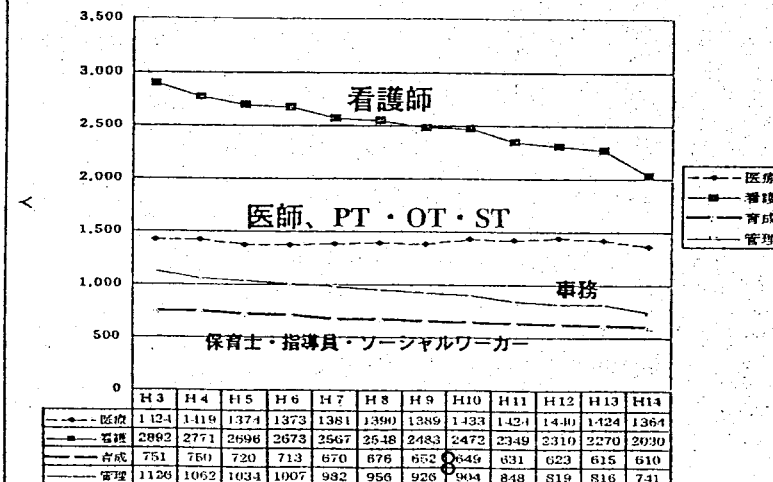


## 在宅・家族支援

15年度  
64肢体不自由児施設

心身障害児巡回療育相談等事	
巡回相談	7986件
療育等支援施設事業	33施設/全国470)
訪問健診	384件
在宅支援相談	20491件
地域生活支援事業	11686件
療育拠点施設事業	
施設支援事業	11施設/全国25)
施設支援指導事業	2396件
施設支援指導事業	137件
重症心身障害児通園	
A型	10施設
B型	15施設

## 職員数の推移 1991~2002



「肢体不自由児施設における被虐待児の実態調査—追跡調査および新規症例調査」

1. 方法と対象

2003年10月1日現在で全国の64肢体不自由児施設を対象に被虐待児について次のような実態調査を行った。

- 1) 2000年10月1日現在で報告のあった被虐待児141名についての追跡調査(38施設)。
- 2) 2000年10月2日以降の新規症例調査(同日以前で前回報告のなかった症例も含む)(64施設)。

2. アンケートの回収

1) 追跡調査について

141名中、閉鎖された1施設1名を除く37施設140名について回答があった。

2) 新規症例調査について

64施設中、被虐待児が新規に入所していたのは、30施設82名。  
このうち、調査票の回答があったのは、29施設78名(回収率95.1%)。

3. 結果

1) 追跡調査140名について

【現在の児の状態】

入所中	83(59.3)
退所	57(40.7)
計	140

表の( )は% (以下の表も同じ)

15/10/1

2) 新規症例78名について

【調査時年齢】

0	1(1.3)
1~6	44(56.4)
7~12	26(33.3)
13~15	3(3.8)
16以上	4(5.1)
計	78

【虐待の発症年齢】

0	19(24.4)
1~6	20(25.6)
7~12	2(2.6)
不明	37(47.4)
計	78

【虐待の種類】

身体的虐待	44(56.4)
性的虐待	0(0.0)
ネグレクト	45(57.7)
心理的虐待	10(12.8)

(重複あり)

【基礎疾患(主となる病名)】

脳性麻痺	29(37.2)
頭部外傷後遺症	23(29.5)
先天性疾患	9(11.5)
運動発達遅滞	6(7.7)
二分脊椎	2(2.6)
低酸素性脳症	2(2.6)
ペルテス病	1(1.3)
その他	6(7.7)
計	78

【主な虐待者】

実父	22(28.2)
実母	63(80.8)
継父	5(6.4)
継母	3(3.8)
祖父	1(1.3)
祖母	1(1.3)
他	1(1.3)
不明	1(1.3)

(重複あり)

【虐待者の離婚暦】

実父 22 人中

離婚暦あり	2
離婚暦なし	17
不明	3

離婚回数 1回2名

実母 63 人中

離婚暦あり	20
離婚暦なし	34
不明	9

離婚回数 1回13名  
2回3名  
3回1名  
不明3名

【虐待者の認識】

虐待を自覚	11(14.1)
行為は認めるが虐待と認めない・問題意識なし	26(33.3)
非を認めない・他の責任にする	18(23.1)
行為を覚えていない	2(2.6)
その他	1(1.3)
不明	20(25.6)
計	78

3) 退所した児 57 名について

【退所の理由】

入所による訓練が不要	17(29.8)
保護が不要	9(15.8)
無理に退所	1(1.8)
施設変更	38(66.7)
その他	7(12.3)

(重複あり)

施設変更の理由(38名中)

障害の種類や程度にあった施設へ	20
年齢超過	9
在宅困難あるいは可能性なし	4
保護者の地元の施設へ	4
記載なし	3

(重複あり)

【退所時の行き先】

虐待した保護者宅	14(24.6)
親類宅	3(5.3)
他施設	37(64.9)
その他	3(5.3)
計	57

退所先の施設の種類(37名中)

重症心身障害児施設	10
知的障害児施設	8
児童養護施設	7
身体障害者療護施設	3
知的障害者更生施設	3
肢体不自由児施設	2
乳児院	1
身体障害者授産施設	1
更生施設	1
授産施設	1
計	37

【施設での児と保護者への現在の対応】

なし	22(38.6)
障害に対して診察・訓練	23(40.4)
合併症に対して診察・治療	7(12.3)
虐待による心のケア	3(5.3)
保護者への支援・援助	6(10.5)
その他	16(28.1)
不明	3(5.3)

(重複あり)

対応なしの理由(22名中)

転出した施設へ任せる	11
遠方	4
受診しない	2
療育目標達成	2
児童相談所が対応している	1
記載なし	2
計	22

4) 入所中の 161 名について

15.10.1

(追跡調査で入所中 83 名、新規症例 78 名)

【入所の種類】

措置入所	157(97.5)
一時保護委託	3(1.9)
不明	1(0.6)
計	161

【入所目的】

治療・訓練	131(81.4)
保護	119(73.9)
その他	3(1.9)
不明	1(0.6)

(重複あり)

【今後の退所の見通し】

退所予定	16( 9.9)
退所予定なし	139(86.3)
その他	3( 1.9)
不明	3( 1.9)
	161

注:「その他」の回答のうち、空床待機など具体的に退所の予定が決まっていないものは「予定なし」とした。

退所先(16名中)

他施設	13
虐待した保護者宅	2
親類宅	1
計	16

【保護者の所へ退所できる条件(自由記載)】

回答あり:118名、回答なし:43名

回答あり118名中

(1) 具体的な条件の記載あり:69名

経済状態、生活環境の改善	21
種々のサポート体制の整備	19
児の障害・疾患の受容	16
療育能力の改善	12
児の疾患の改善、能力の向上	12
社会資源の活用・受け入れ	10
親子関係の改善	7
精神疾患など病状の安定	6
虐待認める	5
精神状態の安定	4
児童相談所の判断による	6
公共機関との連携	2
その他	9

(重複あり)

(2) 保護者の所への退所は不可能:49名

理由

療育環境・能力の問題	20
行方不明・音信不通	16
児を拒絶	14
精神不安定、精神疾患	7
虐待継続	2
児の障害が重度	1
理由の記載なし	3

(重複あり)

【他施設へ転出の手続きについて】

考えていない	118(73.3)
考慮しているが適当な施設なし	12( 7.5)
手続き中	15( 9.3)
転出決定	6( 3.7)
その他	9( 5.6)
不明	1( 0.6)
計	161

手続き中の施設:重心8、肢体1、知的4、更生1  
記載なし1

転出決定の施設:知的2、乳児院1、肢体厚生1  
高等部のある肢体1、身障療護1

転出の理由(33名中)

障害の種類や程度にあった施設へ	13
年齢超過	7
在宅困難あるいは可能性なし	4
保護者の居住地が遠方	2
現在の施設には高等部なし	1
児童相談所と協議の結果	1
記載なし	5
計	33

【退所可能になった場合児へ訓練、ケアの必要性】

必要なし	15( 9.3)
障害に対し診察・訓練	128(79.5)
合併症に対し診察・治療	43(26.7)
虐待による心のケア	21(13.0)
その他	5( 3.1)
不明	3( 1.9)

(重複あり)

以上、主要な設問について記載しました。詳細は、後日報告書でご報告します。

4. 集計結果から

前回調査から3年後の調査で、新規に82名の被虐待児が報告されました。この実態調査は、定時点での調査であり、3年間の集積ではありません。この間に新規入所していても、今回の調査時点までに退所している症例はカウントされません。従って実際の被虐待児の新規入所例はこれよりも多いと考えられます。

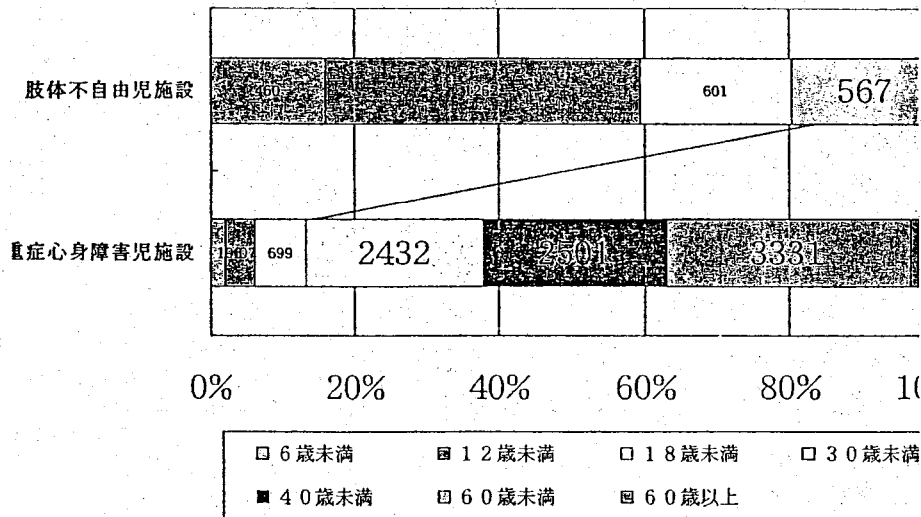
2003年10月1日現在で被虐待児の入所状況は、前回調査から引き続き入所中の83名と新規症例82

## 肢体不自由児施設と重症心身障害児施設

H15.3

	肢体不自由児施設	重症心身障害児施設 (国療を除く)
施設数	64	105
入所児(者)数	2,890	9,889
一施設平均入所数	45	94
年間退所数(15年度)	5785(死亡8)	484(死亡133)
入所年齢		
18歳未満	2,323(80.3%)	1302(13.2%)
30歳以上	0	6,155(62.1%)
年間短期入所総数	61施設中59施設	
外来受診総数(月)	108.327	
通園数(定床)	1,203	

### 入所児者年齢分布 (%)



### 常勤職員数比較

平成15.3

	肢体不自由児施設	重症心身障害児施設 (国療を除く)
施設数	64	105
入所児者数	2,890	9,889
医師	290	438
PT	422	277
OT	271	248
ST	127	129
心理療法士	31	34
ソーシャルワーカー	33	33
薬剤師	68	142
検査技師	67	71
X線技師	61	45
看護師	1,888	4,652
看護助手	91	784
保育士	419	1,275
指導員	144	1479

16.5.31

障害者部 君盛葵